

「ナニワのエジソン」 珍発明とは99%の笑いである



絵・グレゴリ青山

名刺には「ナンセンス 珍ニシテ 妙ナル発明家」と書いてある。人呼んで「ナニワのエジソン」。世のため人のためにならぬ? 珍発明を約40年続けてきた。八尾市の木原健次さん(82)。



「顔面ピンポンです」。エジソンは剣道の面のようにザルに顔をうずめると、目の前の球を顔面ラケットではね返した。「動体視力を鍛えられます」。発想はツッコミ所満載だ。急須を使わず、茶こしやホースを

奇妙な台所用のザルを見つけた。底に卓球ラケットが付いている。底に卓球ラケットが付いている。「顔面ピンポンです」。エジソンは剣道の面のようにザルに顔をうずめると、目の前の球を顔面ラケットではね返した。「動体視力を鍛えられます」。発想はツッコミ所満載だ。急須を使わず、茶こしやホースを



発明品の倉庫に立つ珍発明家の木原健次さん。「絵の珍発明が漫画。言葉の珍発明が落語とか漫才。役に立たなくても面白くて笑える。発明にもそういうのがある」＝大阪府八尾市、筋野健太撮影

くわえて茶を飲む道具は「おちゃっばー」シリーズ。熱い茶が喉を直撃、ブエッブエッ。思わず吐く。ホースを長くすれば、口に入るまでに少しは冷めるかも。垂れるホースを持ち上げるのに、滑車や風船、ドローンなどで7回試した。「失敗の連続ですわ」。道具のせいで壁が落ちたり水浸しになったり。妻(78)は「結婚した時はこんなおかしな人やと思わなかった」。

エジソンは大阪の大手企業の経理マンだった。そろばん片手の日々が嫌で出世街道から離脱。暇はあるが金がない。発明でヒットを出そうと考えた。「巨万の富を築き御殿を建てた人がいて」。当初は真面目に発明品を作り、企業に持ち込んだ。

でも、捨てる神あれば拾う神あり。商品化に協力する工場が現れた。商品は、焼き鳥や串カツの串が抜ける皿。2008年、販売にこぎ着けた。リーマンショックの最中、ゲテモン作りでは負けへん」というナニワの商売人の馬力で1万2千個以上売れた。エジソンは功績が認められ、町工場の特別顧問に就任した。珍発明は人生のよう。楽しんで遠回り、予測不能で失敗だらけ。でも、おかげさまで時々ラッキー。発明が役に立たなくても笑えば「1%のひらめきと99%の笑いである」。(土井恵里奈)

惨敗続きだったが、1980年、転機が訪れた。発明の実用性よりかはかかしさを競うテレビ番組に出た。披露したのは「ケッコウ風呂フイター」。約100羽のニワトリにホースを巻き、卵の代わりに水を温めさせる。本番は1羽しかおらず、24度の水温は17度に下がったが、賞金5万円を獲得。「大阪の変なおっさん」として有名になり、卒業論文のために研究に来る学生も現れた。珍発明の条件は「金をかけない」。さすがに値切りが美徳の関西人。娘のバドミントン道具など家中の物で破壊と創造を繰り返す。さらに、欠点を大事にする。「虫よけマスク」は、網戸の網をお面のように顔に貼る。街中で飛んでくる虫をよけられるが、人間網戸は怖い。虫だけでなく人にもよけられる。「ジョギング精米器」は腰に着けた筒に玄米と五寸釘を入れ、走って精米するが、「1合の精米に8時間以上。一度も食べたことない」。欠点は解消しようとしても見えるから堂々と「発明の知恵は約6千。それでも金はたまる。発明御殿は建たず。妻は「道に落ちてた小銭でこの家建てました。ウツやけど」と笑う。

嫌で出世街道から離脱。暇はあるが金がない。発明でヒットを出そうと考えた。「巨万の富を築き御殿を建てた人がいて」。当初は真面目に発明品を作り、企業に持ち込んだ。

嫌で出世街道から離脱。暇はあるが金がない。発明でヒットを出そうと考えた。「巨万の富を築き御殿を建てた人がいて」。当初は真面目に発明品を作り、企業に持ち込んだ。

発明を唯一商品化した
旭電機化成専務で発明学会理事
原守男さん(62)



ええかっこせぬ関西らしめ
木原さんの発明はボーンと突き抜けています。他人をばかにせず自らを笑ってもらうという哲学があり、ええかっこしないのも関西らしい。商品化を引き受けたのは、今まで一つも商品化されてないならやるかというノリでした。おかげで「けったいなもんでも商品化しよる会社」として世間を知ってもらい、各地の発明家から話が舞い込みました。私は発明学会から声をかけてもらい、理事になりました。第2の木原さんの登場を待っています。

■関西遺産の推薦を募ります。
〈ファクス〉06・6229・2649
〈メール〉do-kansai@asahi.com